

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・5月の売上は2月と比べると増えている。ただ、青果市場価格が低迷していることで出荷の動きが鈍い。6月も緩やかな動きになりそうで、例年とは全く違う動きとなっている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前々年の11.8%となっているが、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったことの影響が少しずつ出てきている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道の場合、夏に向けて春先の販売量が増えてくる傾向がある。今年は新車種の人気が高いことで、その傾向に拍車がかかっており、販売量が例年よりも上乗せされている。周りをみても同じような状況にあり、売上目標を達成している店舗や営業マンが多くみられる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・ワクチン接種の予定が遅れていることもあり、来街客が増加してこない。そのため、危機的状況にある店舗が月を追うごとに増えている。区域内では1週間の客が2～3人という物販店もみられる。5月も廃業する店舗が出ており、地域全体としても最低の状態が継続している。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍のなか、客のマインドに変化はみられない。積極的なイベントを行うことができないなど、苦しい販売状況にあるため、景気に大きな変化はみられない。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前月と変わらない状況が継続している。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は減少しているものの、販売台数の目標に対する達成率は3か月前と変わらずに推移している。売上は見込んでいた目標に近い数字が出ている。
	□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・3～4月と販売量が上向きになってきていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って緊急事態宣言が発令されたことで、5月に入ってから新車販売の動きが止まってきている。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊需要については、依然として低調に推移している。団体の募集型旅行はほぼキャンセルとなっており、スポーツイベントやコンサートイベントに関連した需要が多少みられる程度である。個人旅行もビジネスを目的とした直前予約のみみられるだけである。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・来客数の動きは当然悪くなっている。回復する見込みが全くないというのが今の状況である。
	□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・悪いまま何も変わっていない。緊急事態宣言の発令、ワクチン接種の遅れなど、良いニュースが見当たらない。
	□	美容室（経営者）	販売量の動き	・5月の売上は3か月前とほぼ変わらない。前年と比べてもほとんど変わらない。
	□	美容室（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置、緊急事態宣言が相次いで発令されたが、周りの状況は数か月前とさほど変わっていない。
	▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、新型コロナウイルスのワクチン接種がどうなるのかをとっても気にしている。当地の感染状況が非常に悪いこともあり、景気は段々と悪くなってきている。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・5月に入り緊急事態宣言が発令されたことで、不要不急の外出が控えられるようになっており、どうしても移動しなければいけないビジネス客以外、ほとんど見掛けられない状況となっている。一般的な観光客は全くみられず、まれに若い世代の小グループ旅行を見掛ける程度である。	
▲	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大により、北海道においても緊急事態宣言が発令されたことで、引き続き厳しい状況にある。	

▲	スーパー（役員）	単価の動き	<ul style="list-style-type: none"> 前年は新型コロナウイルス感染防止のため、単価の高いマスクや衛生用品などの商材が不足するほど爆発的に売れていたこともあり、売上は前年を数%下回って推移している。客単価も前年は2けたの増加となっていたが、今年は前年から4%程度下回っている。一方、来客数については、ここ数か月増加傾向で推移している。ただ、全体的には緊急事態宣言が発令されたことで、大型店の営業体制に不安定な部分が生じており、判断に難しい面が生じている。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されたが、今までのような食料品のまとめ買いはみられなかった。客がコロナ慣れしてきている様子が感じられ、これまでと同じような動向が続いている。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言の延長が見込まれていることもあり、景気はやや悪くなっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言の発令により、周辺の宿泊施設や飲食店などの動向が落ち込んでいる。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 客単価は横ばい又は上昇しているものの、来客数が減少している。
▲	家電量販店（店員）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 前年と比べると、来客数も売上も落ち込んでいる。また、電話での問合せが増えている。
▲	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言の発令に伴って、外出を控える消費者や休業する店舗が増えていることで、当店の来客数も減少している。現状の売上は前年並みをキープしているが、来客数が前年比90%台と落ち込んでいる。客単価を上げるように販売活動を行っているが、今後、来客数が一層減少すると、売上減少につながる懸念がある。
▲	その他専門店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 客の様子から明らかなコロナ疲れが感じられる。ワクチン接種の予約が停滞していることも影響している。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言下の自粛ムードにより販売量が減少している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 1～2月は景気が悪いなかでも回復しつつあるようにみられたが、現在は予約の減少、宴会のキャンセルなどの動きがみられ、来客数の減少が目立つようになってきた。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 4月に関東や関西で緊急事態宣言が発令されたことで、ゴールデンウィークを含めて、本州方面からの観光客、ビジネス客の落ち込みが続いていたなか、北海道においても緊急事態宣言が発令されたことから、道内客についても減少傾向となっている。
▲	旅行代理店（従業員）	競争相手の様子	<ul style="list-style-type: none"> 北海道独自の観光支援策である「新しい旅のスタイル」の5月までの延長が決まった矢先に、緊急事態宣言が発令されたことで、施策自体が停止となったため、恩恵を受けることができなかった。来客数などは3か月前と変わりがなく、かなり厳しい状態が続いている。市内では新たに同業者の店舗が1店閉店となった。当社では週2日の臨時休業を開始するなど、人件費の削減を図り始めている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で景気が落ち込んでいるなか、緊急事態宣言が発令されたことで景気が一段と悪くなっている。また、緊急事態宣言が延長されそうなるため、今後の動向がますます悪くなるのではないかと懸念している。
▲	通信会社（企画担当）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> 大型商業施設や大手スーパーなどに来店して販売を行っている分については、来客数が微減する程度で済んでいるが、新型コロナウイルスの感染拡大防止を目的に店舗販売自体を禁止する施設が増えている。出店数が減っていることで、全体の販売量にも影響が出ている。

▲	観光名所（従業員）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されたことから、当施設もそれにあわせて臨時休業とした。3か月前の2月は新型コロナウイルスの第3波が収束し始めたことで状況が改善し、これから少しずつ良くなっていくと前向きに期待していたが、現在ほととも残念な状態まで落ち込んでいる。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 5月中旬に発令された緊急事態宣言の影響で月後半の売上が極端に悪くなっている。来客数は通常時の半分程度に減少している。特に高齢者施設からの来客は皆無となっている。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されたことで、外出を控える客が増えている。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されたことで、特に旅行客が減少しており、予断を許さない状況が続いている。
▲	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言の影響で分譲マンションのモデルルームを訪れる客が減っている。それに伴って、販売戸数も当然のように減少している。こうした状況は当分続くと思われる。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言の影響により商店街、店舗共に、来客数が大きく落ち込んでいる。客の滞留時間も減っており、必要な用事だけ済ますとすぐに帰る客が増えている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令され、百貨店や商業施設では土日の休業を要請されることになった。また、まん延防止等重点措置の発令に伴って酒類提供時間の短縮を要請されていた飲食店では、酒類提供を行う場合の休業を要請されることになったため、夜型の飲食店は軒並み休業せざるを得なくなった。零細企業はもう限界を超えている状況にある。こうしたなかで緊急事態宣言の延長が決定しており、これ以上、企業に無理を強いることはやめてほしい。週末にはほとんどの店舗が休業している一方で、日中の中心部は人波が絶えていないため、企業だけに苦勞を押し付けないでほしい。
×	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> 5月16日に緊急事態宣言が発令されたことで、ほぼ全ての客先が営業を自粛している。当社の売上も当然落ち込んでおり、5月の売上は前々年の30%にとどまる見込みとなっている。
×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されたことで来客数が顕著に少なくなっている。大阪府や東京都などに緊急事態宣言が発令されたタイミングで来客数が減り始め、対象地域が拡大されるたびに段々と来客数が少なくなってきた。特に北海道においては、百貨店に対して時短営業に加えて、土日の休業要請が出された影響が非常に大きい。食品部門については土日も営業しているが、売上面ではかなり厳しい状況にある。
×	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 北海道に緊急事態宣言が発令されてから駅周辺の人の往来が極端に減っており、当店の来客数も減少している。緊急事態宣言の延長が決まったこともあり、このまましばらくは状況が改善しないことが見込まれる。
×	百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 北海道においても緊急事態宣言が発令されたことに加えて、近郊の新型コロナウイルス感染者の数が高止まりしていることから、客の動きが極端に悪くなっている。以前は高齢者が外出を控える傾向にあったが、直近はそれより若い世代にも同様の傾向がみられるようになっている。
×	スーパー（店長）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> 5月16日に発令された緊急事態宣言に伴って、専門店街が土日休業となったため、来客数が激減している。広域商圏のショッピングセンターとしては非常にダメージが大きい。

×	スーパー（従業員）	来客数の動き	・前年の緊急事態宣言発令時には、来客数の減少による落ち込み分を大きく上回る客単価の上昇がみられたが、現在は前年よりも来客数の落ち込み幅が大きくなっているうえ、買上点数の減少に伴って客単価も低下している。
×	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言が発令されたことで、酒類の出荷量がほぼゼロになっている。
×	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年からの新型コロナウイルスの影響が続き、購買意欲が下がっているなかでの緊急事態宣言発令となり、影響が大きい。当業界は補償もないため、全く人出がないなかでも営業しなければならず、どうしようもない状況となっている。
×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は観光客も多くみられ、当店でも行列ができるくらい盛況だったが、緊急事態宣言が発令されたこと、当地の新型コロナウイルス感染者数が増えていることから、月後半は来客数が激減している。緊急事態宣言の延長も見込まれるため、今後も景気の低迷が続くことが懸念される。
×	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前年も5月は営業自粛の影響で悪かったが、今年も月後半から休業しているため、景気は悪い。売上は前年との比較では5割以上の増加となりそうだが、前々年との比較では2割程度の水準にとどまる見込みである。ゴールデンウィーク期間中はランチの利用客が増えて喜んでしたが、結果的には緊急事態宣言の発令に伴って休業を余儀なくされた。協力支援金の支給は有り難いが、来年の税負担が増えないように、原価還元セールや10万円以内の器材投資などで有効利用したいと考えている。また、6月1日より改正食品衛生法が完全施行されるが、多くの飲食店が未対応であり、特にテイクアウト料理でのトラブル発生を心配している。客からのクレームがあれば保健所による行政指導が行われることも考えられるため、新型コロナウイルス対策よりも影響が大きくなる懸念がある。
×	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は、前々年の水準には至っていないものの、来客数が徐々に増えてきていたが、ゴールデンウィーク最終日から来客数が減少に転じており、歯止めが掛からない状況にある。札幌市におけるまん延防止等重点措置の発令、北海道における緊急事態宣言の発令が相次いだことで、本店では閉店時間の前倒し、ランチのみの時短営業の実施と営業の自粛を行っており、景気は一気に悪くなっている。
×	スナック（経営者）	来客数の動き	・現在は休業しているため、景気の良しあしを判断できる状況にはない。
×	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・長期にわたる人流抑制政策のため、事業活動が停滞している。北海道において緊急事態宣言が発令されたことで既存の予約はほぼキャンセルとなり、現在は休業中である。また、緊急事態宣言の延長も確実となったため、新しい予約も皆無である。
×	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染者数、特に変異株による感染者数が増えたことで、北海道において緊急事態宣言が発令された。当地も特別措置区域となったため、人の行動が制限されており、経済が止まっている状態にある。
×	タクシー運転手	来客数の動き	・5月16日に北海道において緊急事態宣言が発令されたため、人の移動が極端に減少している。特に夜の繁華街は20時を過ぎると真っ暗になるため、人が全く歩いておらず、タクシーの利用もない。売上は前年よりも減少しており、新型コロナウイルス発生以前の前々年と比較すると50%以上の落ち込みとなっている。客がいないことから、休業するタクシーも日を追うごとに増えてきている。
×	タクシー運転手	販売量の動き	・緊急事態宣言の発令後は、夜の売上が激減した前年よりも一段と厳しい状況となっている。車両の稼働を本来の10分の1に抑えたとしても、人件費すら確保できない状況にある。

	×	タクシー運転手	来客数の動き	・夜間の人出が減少している。特に緊急事態宣言の発令後は、当然だが客が極端に減っている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・緊急事態宣言の発令に伴って、外出自粛の動きが進んでおり、タクシー需要が顕著に落ち込んでいる。さらに、酒類提供の自粛もあり、経済的に金が回っていない状況にある。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・5月16日に北海道において緊急事態宣言が発令されたことで、夜の街関連の居酒屋、スナックなどでは午後8時までの営業自粛要請が出されたため、極端に人の動きがなくなった。タクシーの稼働状況もひっ迫しており、前年よりも厳しい状況となっている。
	×	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・第3次ウッドショックと呼ばれるほど、木材の単価が異常に高騰している。それに伴って建材などの単価も上昇傾向にあり、仕入れをしづらくなっている。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの第4波に伴って緊急事態宣言が発令されたことで、家具業界の景況感も足踏み状態に転じている。ただ、3か月前と比べると景気はやや良くなっている。
	○	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・公共土木工事については、予定どおりに新年度受注分の着工期を迎えている。一方、民間建築についても年度前半の工事量が確保できている。
	○	輸送業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・春先から、農産物関連の荷動きが好調に推移している。飲料関連も堅調に推移している。一般消費が上向き傾向にあることから、全体的には例年並みの物量に戻りつつある。ただし、建材、紙パルプ関連の動きは鈍い。
	□	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注状況は景気が悪いまま全く変わらない。
	□	コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が良い方に転んでいる客と悪い方向に転んでいる客が極端に分かれており、判断に悩むところである。飲食、観光については想像以上に悪い状況にあるものの、ICT分野については巣籠り需要、テレワーク需要が強まっていることで、売上が大きく伸びている。
	□	その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・外食、ホテル業は引き続き厳しい状況にあるが、当社の売上はレンタル需要が堅調に推移していることでほぼ前年並みで推移している。
	□	その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・設備投資の状況に大きな変化は感じられない。ただ、緊急事態宣言の発令に伴って、特に観光関連業種では厳しい状況が継続している。
	▲	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・5月の販売量は前年比マイナス40%であったが、3か月前は前年比マイナス36%だったため、景気はやや悪くなっている。
	▲	金属製品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3月の住宅着工件数が前年より減っていることもあり、4月の受注量が前年よりも落ち込んでいる。また、住宅用木材の高騰及び不足が表面化してきていることもマイナスである。
	▲	建設業(従業員)	取引先の様子	・仕事量が減少傾向にある。また、木材単価が高騰していることで、今後の工事契約者数が減少する可能性が高まりつつある。
	▲	通信業(営業担当)	取引先の様子	・当社の受注量や案件数だけをみた場合の景況感は悪くないが、周囲の取引先の業績や営業状況などをみると、新型コロナウイルス対策に伴う経済活動の抑制によって景況感がやや悪い方向に振れているとみられる。
▲	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、緊急事態宣言が発令されたことで、人と物の動きが抑制されている。経済が低迷した状況において、不要不急とみられる不動産取引も減少している。営業活動もリモートでは難しい状況であり、景気が良いとは言えない。	

		司法書士	取引先の様子	・不動産業や建築業が主な取引先であり、新築注文住宅が伸び悩んでいるため、これに関連して土地売買も低調に推移している。一方、建売住宅は注文住宅よりは堅調であるが、これは注文住宅よりも価格が低く抑えられている影響とみられる。これらのことから不動産取引は低価格傾向にあり、景気も下降気味に推移している。
	▲	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 (従業員)	受注量や販売量の動き	・地域によるばらつきはあるが、全体的にベース商材の動きが悪くなっており、設備の入替えや機器の購入に対する意欲が薄れてきている。
	×	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・既存大口客の取扱量が前年と比べて減少傾向にある。
	×	金融業(従業員)	取引先の様子	・北海道にも緊急事態宣言が発令され、多くの飲食店、大型商業施設、観光施設が休業に追い込まれている。コロナ禍により経済活動が大幅な制約を受けており、3か月前と比べて景気は悪くなっている。
雇用 関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数が増加傾向にある。これまでは営業などの即戦力を求める求人依頼が多くみられていたが、ここに来てコロナ禍前のような未経験者も対象にした求人が増えてきている。前年は新型コロナウイルスの流行に伴って、4月以降は未経験者を対象にした求人がストップしたが、業容拡大に向けて、経験の有無にかかわらず人手を求める人材需要が回復してきていることがうかがえる。
	○	職業安定所(職員)	求人数の動き	・4月の有効求人倍率は1.18倍となり、前年を0.20ポイント上回った。新規求人数が前年を上回っていることから、景気はやや良くなっている。
	□	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・新型コロナウイルスの影響や緊急事態宣言の発令による飲食店へのダメージはあるものの、第1次産業及び第2次産業の求人数については若干の増加傾向がみられるなど、業種間による温度差がみられる。
	□	職業安定所(職員)	求人数の動き	・当地域における4月の有効求人倍率は0.82倍であり、3か月前と比べて0.02ポイント下回った。
	□	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き	・2022年卒大学生の就活が3月から始まっているが、採用企業の間口は前年と同様に狭い。本学の学生は、コロナ禍でも業績を左右されないような企業よりも、B to Cの中小企業を目指す傾向があるため、かなり苦戦している。企業側も収益が上向くような要素がないため、非常に慎重である。北海道は中小企業が圧倒的に多いため、本学のような道内私大の学生にとっては厳しい状況が続いている。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・緊急事態宣言が再び発令された影響で、これまで比較的順調に推移していた求人件数に陰りが出始めている。新型コロナウイルス感染者数の動向とワクチン接種の進捗などへの様子見ムードが高まっており、予定していた求人募集を先延ばしするケースが続出している。ただ、採用ニーズ自体がなくなったわけではなく、求職者の就職意欲も衰えているわけではない。
	▲	求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・春先は自粛要請が和らぎ、消費マインドが上向き始めていたことから、これから経済活動が活発になっていくことへの期待感があつたが、再度の緊急事態宣言の発令とワクチン接種の遅れによって、一部の巣籠り需要が生じている分野以外、経済活動が上向くような要素が見当たらない。
	▲	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・雇用調整助成金の問合せなどが非常に増えている。緊急事態宣言の発令を受けて、景気はかなり悪化しているとみられる。
	×	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・ゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルス感染者数が急増したことで、緊急事態宣言が発令され、農業や建設、自動車整備などの一部業種や短期勤務の新型コロナウイルス対策関連の求人案件を除けば、採用ニーズ、マインドに急ブレーキが掛かっている。掲載申込みが大幅に減っている。